

# 米国・ミネソタ州における乳幼児期家族教育の 領域、内容、指標：『親教育コア・カリキュラム・ フレームワーク 2011』に基づいて

倉元綾子・山領春衣<sup>1</sup>

Domains, Contents, and Indicators of Early Childhood Family  
Education in Minnesota State, U.S.: Based on the *Parent Education  
Core Curriculum Framework 2011*

Ayako Kuramoto and Harui Yamaryo

## I. はじめに

2020年、新型コロナウイルス・パンデミックにより、個人・家族・コミュニティにおいて、子どもや女性の自殺、家庭内暴力、DV、児童虐待、女性の家事・育児負担、ストレス、非正規女性労働者を中心とする失業、飲食店の倒産など、さまざまな課題が噴出している。特に子どもと家族の生活をめぐる状況は厳しさを増しており、DV相談件数の増大（1.6倍、2020年5、6月）[内閣府男女共同参画局、2020]や児童虐待対応件数の増大（9.9万、10%増、2020年1-6月）[厚生労働省、2021]は、子育て・家族生活の課題が大きいことを明らかにしている。

こういった子育て・家庭生活に関する課題解決のためには、全ての子どもと親・家族を対象とした系統的で普遍的なペアレント教育プログラム、とりわけ乳幼児期の子どもと親・家族を支援する包括的プログラムが必要である。

米国では、家族生活教育および親教育が、日本に比べて大きく進んでおり、

---

<sup>1</sup> 九州文化学園小中学校、2021年本学卒業生

広く認知され、展開されている。

本研究では、親教育の先駆的で典型的な事例であるミネソタ州の乳幼児期家族教育（Early Childhood Family Education）活動の基礎である『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011（Parent Education Core Curriculum Framework 2011）』の領域、内容、指標を明らかにする。それを通じて、乳幼児期家族教育の実際を検討する手掛かりとしたい。

本研究では、Parent Education、Family Life Educationに関する文献、米国ミネソタ州教育局の関連するウェブサイトを調査し、翻訳・分析している。

## Ⅱ. 親教育およびカリフォルニア州の事例

### 1. 親教育とは

まず、米国における親教育とは何かについて、外観しておきたい。

NCFR（National Council on Family Relations、米国家族関係学会）によって定式化された米国の家族生活教育の枠組みには、表1に示すように10の内容領域と、4つの期（子ども期、思春期、成年期、高齢期）がある〔NCFR、2011〕。

表1 家族生活教育の10の内容領域と4つの期

	子ども期	思春期	成年期	高齢期
社会のなかの家族と個人				
家族内ダイナミクス				
人間の成長と発達				
人間の性				
人間関係				
家族資源管理				
<b>親教育と指導</b>				
家族法と社会政策				
職業倫理と実践				
家族生活教育方法論				

倉元・山領作成、2021

表に見るように、親教育は家族生活教育の一領域として「親教育と指導」に位置づけられている。「家族生活教育の内容領域：内容と実践ガイドライン

(Family Life Education Content Areas: Content and Practice Guidelines)』は、親教育の内容と実践を次のように記している（要旨）[ダーリン、キャシディ、パウエル著、倉元、黒川監訳、2019]。

内容：親子関係の性質の生涯にわたる変化、ダイナミクス、ニーズなど、親が子どもや思春期の若者にどのように教え、導き、影響を与えるかに関する理解。

例：子育て（親になること）の権利と責任；子育ての実際・プロセス；親子関係；子育ての問題解決の方法の多様性；子育て（親）役割の生涯にわたる変化

実践…CFLE<sup>2</sup> は次のような活動のために準備する。

- a. システム的視点と生涯にわたる視点からの健康な子育ての促進
- b. 子どもと親の発達の視点からの健康な子育ての促進
- c. 効果的な発達の促進のための、子どもの年齢・発達段階に基づく戦略の適用
- d. さまざまな子育てスタイルとそれに伴う心理的、社会的、行動的結果の特定
- e. 多様な子育てプログラム、モデル、原則の分析
- f. 多様な子育て戦略の有効性と適切さの評価
- g. 多様な子育て役割（例：父親・母親、祖父母、他の保育者）と、それらの人々が個人と家族に与える影響と貢献の認識
- h. 多様な家族構成（例：ひとり、混合、同性）の中での子育て課題の認識
- i. 子育てに対する社会のトレンドの影響（例：テクノロジー、薬物乱用、

---

<sup>2</sup> CFLE とは、全米家族関係学会（NCFR）の認証家族生活教育者（Certified Family Life Educator）の略。

メディア) の認識

j. 文化の違いや多様性の影響の認識

k. 多様な設定 (例: 学校、法システム、ヘルスケア) において子どもを支援する戦略の特定

l. 子育てとそれに伴う課題や挑戦 (例: 介助出産、養子縁組、出産、ブレンディング blending) への多様な経路の認識

これらに見るように、子ども期・成年期の親教育には、特に、親の発達、親子関係、乳幼児の発達、家族の発達、子育てスキル、子育て情報など、多面的で切実な知識とスキルが求められる [ダーリン、キャシディ、パウエル著、倉元、黒川監訳、2019]。

## 2. カリフォルニア州グレンデール・コミュニティ・カレッジにおける親教育

上述のような米国における親教育の実際についての研究はほとんど行われていない。わずかに、藤井が日本における子育て支援・親支援のあり方に対する示唆を得るために、2009年9月に米国カリフォルニア州における親教育の事例を調査・検討している [藤井、2011]。

その1つが、米国カリフォルニア州のグレンデール・コミュニティ・カレッジにおける親教育である。カリフォルニア州では親教育をコミュニティ・カレッジの役割の1つとして明確に位置づけ、授業料を徴収せずに無料で親教育プログラムを提供しているからである。なお、米国のコミュニティ・カレッジは、地域住民のための、そして地域社会のための中等後教育機関である。子育てや親子関係に関する支援や教育もまた、地域社会のニーズの1つである。そこで、グレンデール・コミュニティ・カレッジではそれに応えるべく地域住民に対して親教育プログラムを提供しているのである。

同カレッジで提供されているプログラムは、親子参加型 (親子が様々な活動と一緒に参加するとともに、親同士のディスカッションを行うタイプ) が中心である。ほとんどのクラスは働いていない母親とその子どもを対象としているが、働いている親とその子どものための特別クラスも、夜間に1クラスだけ開

講される。また、父親と子どものクラスも特別クラスとして夜間に1クラス開講される。表2には2歳児クラスのスケジュールを示している。

表2 2009年秋学期・2歳児クラスのスケジュール  
(米国カリフォルニア州グレンデル・コミュニティ・カレッジ)

10:45-11:30	45分	観察室…出席表にサイン、自由遊び、創造的活動
11:30-11:45	15分	片付けと移動／親が子どもに物語を読む
11:45-12:10	25分	絨毯タイム…玩具での遊びは禁止
12:10-12:25	15分	手洗いとおやつ
12:25-12:30	5分	遊びとディスカッションへの移動
12:30-13:20	50分	親のディスカッション
13:20-13:30	10分	片付け
13:30-13:45	15分	パラシュート／シャボン玉／ハンド・スタンプ／終了

倉元・山領作成、2021

親のディスカッション以外は、親子一緒に参加する活動である。

いくつかの特徴的な活動が説明されている。

「絨毯タイム」とは、担当教員が主導する活動で、絨毯の上にみんなで座って、歌やリズム、指遊び、フェルト板遊びなど、組織化された活動を行う時間である。

親子一緒に活動では、親の参加と親子の相互作用が強調される。また他者との関係において、子どもがどのように社会性を身につけ発達していくかを観察し、記録する機会である。さらに、同じ活動に参加することで親同士のネットワークも形成、発展させることができる。おやつに関しても細かい注意事項があるが、これもまた親教育の一部である。

親のディスカッションの時間は、間仕切りを閉め、親教育担当教員があらかじめ作成したシラバスに沿ってディスカッションを行う。表3には2009年のディスカッションのテーマ例を示した。

表3 2009年秋学期・2歳児クラスの親同士のディスカッションのシラバス  
(米国カリフォルニア州グレンデル・コミュニティ・カレッジ)

第1週	オリエンテーション
第2週	ただ遊ぶこと
第3週	しつけ(その1)
第4週	自由討論
第5週	しつけ(その2)
第6週	しつけ(その3)/関心と成功例の共有
第7週	攻撃的な行動
第8週	おまるトレーニング
第9週	秋季仮装行列と持ち寄りパーティー/自由討論
第10週	ことばの発達
第11週	睡眠と食の問題
第12週	分かち合いと感謝
第13週	秋季収穫祭持ち寄りパーティー/自由討論
第14週	しつけ 受講生と学習成果
第15週	休日の伝統と家族ストレス
第16週	冬季持ち寄りパーティー/お菓子の家

倉元・山領作成、2021

2歳児の発達課題に合わせ、3週にわたって「しつけ」がテーマとして予定されている。また、「攻撃的な行動」や「おまるトレーニング」など、日ごろ子育てを行う中で、困ったり悩んだりしやすいテーマも設定されている。自由討論も3回設けてあり、重要なテーマであるしつけについては、ディスカッションを通して親同士が関心を共有し、成功例から互いに学び合うことができるようになっている。

さらに、グレンデル・カレッジ親教育会という親のための会がある。クラス間のより良いコミュニケーションをはかる目的で設立されたが、資金集めもこの会の主要な目的である。親教育自体は無料であり、参加する際に授業料を支払う必要はない。最低限の文房具等も支給される。

また、「親の会の政治学と実践」というテーマのクラスの内容は、①親支援のネットワークを発展させる、②学校の多様な側面における親の参加を奨励する方法、③資金集めの方法などが予定されている。親教育クラスや親の会への参加を通じて、親がエンパワーされるような親教育を、正規のプログラムとして提供することが目標かつ目的である。

### 3. カリフォルニア州サンタモニカ家族サービス

藤井はまた、カリフォルニア州サンタモニカ家族サービスが提供しているプログラムとサービスについても報告している〔藤井、2012〕。

サービスは大きく2タイプに分かれる。1つは主としてサンタモニカ家族サービスをベースとして提供されるサービスであり、もう1つは、学校（保育所、小学校、中等学校など）をベースに提供されるサービスである。

サンタモニカ家族サービスをベースにしたサービスは、4種類に分けられる。表に見るように、①と③が親教育に関連しており、特に③が関連している（表4）。

表4 米国カリフォルニア州サンタモニカ家族サービスをベースとするサービス

①成人、子ども、家族を対象とするカウンセリング	親子の葛藤、適応障害、抑鬱、不安、心的外傷後ストレスなどの様々な問題をカバーしている。
②各種の地域サイトにおけるワークショップ	子どもの自己評価、思春期について、5年生から中学校への移行、ストレス・マネジメント、性について子どもに語る方法、子どもの発達などのトピックを取り上げる。
③子育てグループ	8回にわたる教育的・サポートのグループ・セッションを実施していて、葛藤解決、親子関係のコミュニケーション、自己評価、しつけテクニック、家族関係の改善などのテーマをカバーしている。
③インターン訓練プログラム	修士課程の学生（社会福祉専攻、心理学専攻、カウンセリング専攻など）のインターンシップ受け入れを行い、実践的なトレーニングを行っている。

次に、学校をベースとするサービスにも4種類のサービスがある（表5）。このうち、③が親教育・子育て教育である。

表5 学校ベースのサービス（米国カリフォルニア州サンタモニカ家族サービス）

① Cal Safe（高校生など10代で親になり、妊娠中や子育てをしながら通学しているティーンエイジャー生徒を対象とする包括的支援プログラム）	サンタモニカ高校、オリンピック高校、リンカーン中学校、ジョン・ミューア中学校、そしてサンタモニカ・カレッジの5校で実施されている。
②小学校におけるスクール・ソーシャルワーク	ジョン・ミューア小学校とマッキンリー小学校の2校において実施されている。フルタイムのソーシャルワーカー1人が1校を担当し、親、教師、学校職員などからの要請により家族と子どものアセスメントを行うほか、地域資源へのアクセス援助、学校教職員に対する相談業務、子育てグループ（英語とスペイン語で実施）、親と教師によるワークショップ、生徒のための心理的・教育的グループなどのサービスを提供している。この2校以外の小学校でも他の類似の組織がスクール・ソーシャルワークを提供している。

④就学前サポート・プログラム (ヘッド・スタートなど)	家族と子どものアセスメント、学校での短期間のメンタルヘルス介入サービスや地域のメンタルヘルス資源の紹介、学校教職員に対する相談業務、「反省的子育てプログラム」という10のセッションから成る親教育プログラムの実施がある。時には家庭訪問や深夜の電話相談にも対応する。
⑤メンタルヘルス専門職による カウンセリングと教職員を対象 とする相談サービス	メンタルヘルス専門職によるカウンセリングを提供、また教職員からの相談にも専門職が応じる。

2つの報告から抽出されたカリフォルニア州における親教育の特徴は以下のとおりである。

- ① 親子が一緒に参加する活動と親同士のディスカッションを組み合わせた親参加型プログラムにより、子どもの心身の発達と親の発達を同時に図っている。
- ② 親子間の相互作用を重視している。
- ③ 親同士のサポータティブな関係づくりを図っている。
- ④ 親教育の専門家によって指導・援助されている。
- ⑤ 無料でプログラムが提供されている。
- ⑥ カレッジには、カレッジ教育特有の組織性・計画性・持続性が見られる。

以上のように、藤井の報告は、米国カリフォルニア州における親教育について調査・分析し、その特徴をまとめており、示唆に富んでいる。

しかしながら、藤井のこの報告以降、今日まで、米国における親教育・子育て教育の動向についての研究は進んでいない。また、調査はカリフォルニア州に限られていた。

そこで、筆者らのひとは、親教育に関して、先駆的で典型的な親教育を実施しているミネソタ州における乳幼児期家族教育に焦点をあて、歴史と制度を明らかにしている [倉元綾子、2021]。本研究では、乳幼児期家族教育の理論的背景となっている『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011』の概要を明らかにし、その意義とプログラム実践との関係について検討する。



### Ⅲ. ミネソタ州における親教育と乳幼児期家族教育

#### 1. ミネソタ州における親教育と乳幼児期家族教育の特徴

NCFR (National Council on Family Relations、全米家族関係学会) は 1985 年、認証家族生活教育者 (Certified Family Life Educator、CFLE) 制度を確立した。CFLE 資格は、家族生活教育や親教育の専門家であることを示す指標のひとつとなっている。とはいえ、米国のすべての州が、家族生活担当者に対して CFLE 等の資格を求めているというわけではない。

そういう中で、ミネソタ州は唯一、1989 年以降、Early Childhood Family Education (ECFE、乳幼児期家族教育) プログラムを通じた親教育の提供に際して、乳幼児教育や親教育の免許を持つことを求めている [ダーリン、キャッシュディ、パウエル著、倉元、黒川監訳、2019；倉元、2021]。

乳幼児期家族教育 (ECFE) は、親・保護者をサポートし、家族を強化し、力を与えるよう働きかけるものである。ミネソタ州では、すべての親と家族が、子どもの学習と発達において可能な限り最高の環境を提供する能力を高めることを目標としている。ECFE はミネソタ州のすべての家族を対象とした、出生から幼稚園に入るまでの子どもを持つ親のための、子育て教育プログラムである。

#### 2. ミネソタ州における乳幼児期家族教育の歴史

上述のように、ミネソタ州における親教育はその先駆性、典型性において優れている。

そこで、先行研究「ミネソタ乳幼児期家族教育の歴史：プログラムの発達 (HISTORY OF MINNESOTA EARLY CHILDHOOD FAMILY EDUCATION: Program Development、ミネソタ州教育局、2011)」から、主要な年と事項を抽出し、表 6 に示した [倉元、2021]。

表に見るように、1973 年以降、ECFE のための努力が継続に積み重ねられている。プログラムは、1974 年に 6 つのプログラムが 23 万ドルで試験的に実施されて始まった。それ以降、次第に拡充され、1986 年には 253 地区、2010 年現在では、約 13 万人の親、約 12 万人の子どもが ECFE 活動に参加している。

財源は、1985年から賦課金と州補助金によって確保され、2010年には436万ドルを調達している。

表6 ミネソタ乳幼児期家庭教育の歴史：プログラムの発達（抄）

年	事項
1973年	第1回 ECFE 法案が上院に提出されるも通過せず。
1974年	「質の高い教育審議会」(Council on Quality Education CQE) を草案化し、230,000 ドルで6つのプログラムを試験的に実施。
1979年	「質の高い教育委員会」(CQE) の勧告によって、36か所に交渉し40か所に段階的な拡大を開始し、残りの4施設は連邦政府の資金で賄うことが期待された。
1983年	新しい法律により、ECFEプログラムの資金と責任はコミュニティ教育に移され、資金調達の基盤は助成金から1人当たりの補助金へと変更された。
1984年	CQEプログラムは29学区で継続され、さらに41の学区がECFEを採用していると推定される。「乳幼児期家庭教育プログラム開発の手引き」がミネソタ州の全学区に配布された。
1985年	10月に初めて、地区がCEFE 賦課金の権限を行使できるようになり、253地区が賦課金を徴収した。 地域実地研修ネットワークが設立された。 約70の地区でプログラムが実施され、さらに多くの地区が計画とアウトリーチに携わる。
1986年	州全体の資金調達方式の下でプログラムが実施された最初の年であり、253地区がプログラムを実施した。
1990年	書式の手引きとスキル進行ハンドブックが作成され、「乳幼児期家庭教育プログラム開発の手引き (Guide for developing Early Childhood Family Education Programs) が改訂され、全ての地区に配布された。 議会は、幼稚園から小学校3年生までの子どもとその保護者を対象とした ECFE 拡大のための10件の補助金に45万ドル計上する。
1992年	議会は、包括的な暴力防止イニシアチブの一環として、ECFE訪問/暴力防止トレーニングのために、0-4歳児当たり1,60ドルを計上している。
2001年	「乳幼児期家庭教育プログラム実施のための手引き」が3回目の改訂を行い、すべてのプログラムに配布された。特別ワークショップが開催され、手引きについて議論、「乳幼児期家庭教育プログラム・強化プロセス・マニュアル」を配布した。
2007年	ミネソタ州制定法2006年第124D、13項第1節の改正に目的が盛り込まれた。「乳幼児期家庭教育プログラムの目的は、子どもの学習と発達を支援するために子育て教育を提供することである。」
2010年	約128,062人の保護者と122,123人の子どもがECFE活動に参加した（重複カウントなし）。 州全体の収入は43,634,000ドル（超過資金残高に対するペナルティ調整前）で、賦課金21,738,000ドルと州補助金21,896,000ドルで構成されている。

原資料：Minnesota Department of Education (2020). HISTORY OF MINNESOTA EARLY CHILDHOOD FAMILY EDUCATION: Program Development.

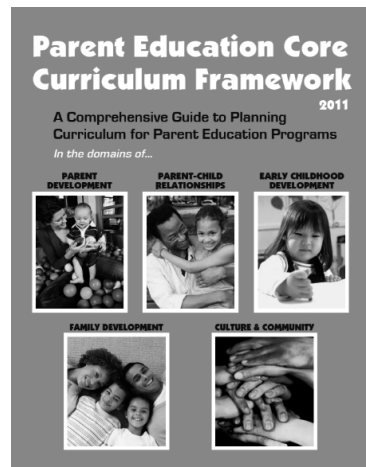
資料出所：倉元綾子。(2021). 米国・ミネソタ州における乳幼児期家庭教育 (Early Childhood Family Education) の歴史と制度：家庭生活教育および親教育の事例. 西南学院大学人間科学論集、16(2)、195-228.

#### IV. 『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011』

##### 1. 『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011』の概要

ECFE プログラムで用いられている『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011 (Parent Education Core Curriculum Framework 2011)』について、ミネソタ家族・乳幼児教育協会のウェブサイト (Minnesota Association for Family and Early Education) では次のように示されている [Minnesota Association for Family and Early Education]。

『『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク：親の発達、親子関係、幼児期の発達、家族の発達、文化、コミュニティの領域で親教育プログラムのカリキュラムを計画するための包括的なガイド』は、親教育において、コアとなる内容の周りにパラメータ（何を教えるか）を定義し配置している。これは、予め指定されたカリキュラムを意図したものではない。これは、親教育者が、一緒に働く親と親グループの特定かつ固有なニーズと期待を評価し、カリキュラムを設計し、ニーズと期待に最適なリソース（資源）を選択する際に、自律性と創造性を発揮する必要があるという仮定に基づいている。フレームワークは、この作業を行うための基盤とプロセスを提供する。』[倉元、2021]



『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011』の表紙は図1のとおりである。

図1 親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011 (表紙)  
(Minnesota Association for Family and Early Education より許可を得て転載)

『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011』の具体的な目標は以下のようなリソース（資源）を提供することである。

1. 親教育の分野における知識体系、定義
2. 親教育分野全般への適用
3. 親教育カリキュラムと授業計画の開発・提供のためのツール
4. ミネソタ州乳幼児期家族教育と「イーブンスタート」の内容と目的の特定
5. 親教育における親の目標設定のためのガイダンスの提供
6. 親教育成果とプログラム評価の視点の提供
7. 親教育プログラムの責任ある計画と実行、それに対する親教育者の説明責任（accountability）の遂行
8. 親教育の実践のための情報提供（倉元・山領仮訳、2021）

## 2. 『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011』の位置づけ

『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011』成立の背景は次のように説明されている（概要）。

ミネソタ州の幼少期家庭教育（ECFE）プログラムコーディネーターと親教育者の初期グループによって、数年かけて開発された。主要な役割を果たしたのは、ミネソタ州のミネソタ大学の教育学部と家族教育のベティ・クックである。ECFEは、連邦政府のイーブン・スタート・ファミリー・リテラシー基金の一部支援を受けて実施された。親教育コア・カリキュラム・フレームワークは、フレームワーク、指標、カリキュラム開発プロセスをさらに発展させた。親教育コア・カリキュラム・フレームワークの実施に関する6時間のワークショップを数回実施し、ワークショップの参加者、親教育の学生、現場の人たちからの意見を集めて、2008年の作業草案版が作成された。ミネソタ州家族・乳幼児期教育協会（MNAFEE）が採用して、研修、資金調達と普及を行っている。

（倉元・山領仮訳、2021）

### 3. 『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011』の構成

また、目次は表7のとおりである。

表からわかるように、『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011』は、大きく分けて3つの内容から構成されている。まず序論では、親教育コア・カリキュラム・フレームワークとはどのようなものか、その定義が説明されている。10ページからは具体的な中身が書かれており、筆者らが今回取

表7 親教育コア・カリキュラム・フレームワーク (目次)

序論	1
親教育の本質	1
親教育コア・カリキュラム・フレームワークの目的と目標	2
親教育コア・カリキュラム・フレームワークの組織と構造	2
幼児期発達指標へのリンク：ミネソタ州幼児期学習基準（3歳から5歳までの子ども対象）；乳幼児期発達指標：ミネソタ州乳幼児期学習ガイドライン（誕生から3歳までの子ども対象）	3
想定される用途	4
<b>親教育コア・カリキュラム・フレームワーク</b>	5
表形式：親教育コア・カリキュラム・フレームワーク	6
チャート形式：親教育コア・カリキュラム・フレームワーク	7
親教育コア・カリキュラム・フレームワークと指標	10
親の成長・発達	10
親子関係	11
幼児期の発達	13
家族の発達	17
文化とコミュニティ	18
<b>親教育コア・カリキュラム・フレームワークと指標を使う手順</b>	21
第1段階 親のニーズと期待への応答と初期アセスメント	21
第1段階、ステップ1の手順のための用紙	23
第2段階 初期カリキュラム計画のための親教育コア・カリキュラム・フレームワークと指標の利用	25
統合的カリキュラム計画グリッド	27
統合的カリキュラム計画グリッド・サンプル	28
第3段階 統合的授業計画プロセスを利用した指導活動と評価の計画	32
注釈付き統合的授業計画	32
統合的授業計画	34
統合的授業計画サンプル	36
参考文献	38
追加情報	38
さらに詳しい情報	48

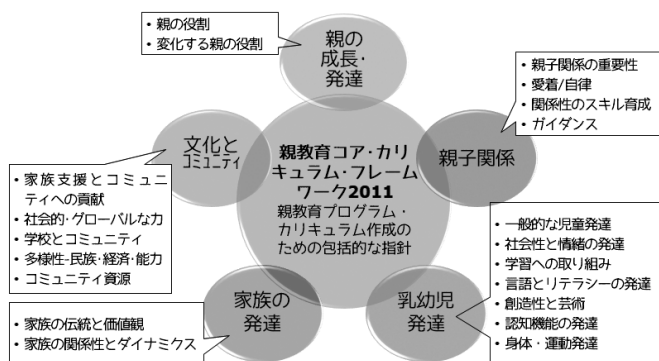
り上げるのはこの部分である。そして、最後の21ページ以降には親教育コア・カリキュラム・フレームワークの使い方が、段階ごとに詳しく説明されている。

#### 4. 『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク2011』の内容

次に主要な内容について述べる。

図2に示すように、親教育コア・カリキュラム・フレームワークは「親の成長・発達」、「親子関係」、「乳幼児期の発達」、「家族の発達」、「文化と地域社会」から構成されている。それぞれの内容は「親の成長・発達」(親の役割、変化する親の役割)、「親子関係」(親子関係の重要性、愛着/自律、関係性のスキル育成、ガイダンス)、「乳幼児期の発達」(一般的な児童発達、社会性と情緒の発達、学習への取り組み、言語とリテラシーの発達、創造性と芸術、認知機能の発達)、「家族の発達」(家族の伝統と価値観、家族の関係性とダイナミクス)、「文化と地域社会」(家族支援とコミュニティへの貢献、社会的・グローバルな力、学校とコミュニティ、多様性-民族・経済・能力、コミュニティ資源)である。

図に示すように、親の成長・発達や乳幼児の発達を中核的な内容としながらも、他の領域の多様な課題を包括して、乳幼児期家族教育を実施しようとして



倉元・山領作成、2021

図2 『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク2011』の主要な内容

いることがわかる。

また、表 8 親教育コア・カリキュラム・フレームワーク（表形式）には、各領域で取り扱う内容がすべて示してあり、内容の詳細を知る手がかりとなる。

表 8 親教育コア・カリキュラム・フレームワーク（表形式）				
親の成長・発達	親子関係	乳幼児期の成長・発達	家族の成長・発達	文化とコミュニティ
<b>親の役割</b> 1. 役割への移行 2. 複数の親の役割 3. 子育ての理念  <b>変化する親役割</b> 1. 子育ての段階 2. ファミリー・オブ・オリジン 3. 親子のニーズのバランスを取る	<b>親子関係の重要性</b> 1. 性質と質 2. 意図性  <b>愛着／自律</b> 1. 信頼 2. 脳の発達  <b>関係性スキル</b> 1. 観察力 2. 感性と対応力 3. 互恵性 4. ペース 5. 気質  <b>養育</b> 1. 身体的なケア 2. アファメーションと愛情 3. 共感と尊敬  <b>ガイダンス</b> 1. モデリング 2. モニタリングと管理 3. 構造	<b>一般的な子どもの発達</b> 1. 発達のプロセス 2. 発達への期待  <b>社会性と情緒の発達</b> 1. 感情の発達 2. 自己認識と自己調節 3. 社会的能力と人間関係  <b>学習への取り組み</b> 1. 好奇心 2. リスクを取ることに 3. 創造力と発明 4. 粘り強さ 5. 反省と解釈  <b>言語とリテラシーの発達</b> 1. リスニングと理解 2. 話すこと 3. 創発的なリーディング 4. 創発的なライティング  <b>創造性と芸術</b> 1. 創造 2. 対応 3. 評価  <b>認知機能の発達</b> 1. 数学的・倫理的思考 2. 科学的思考と問題解決 3. 社会システムの理解  <b>身体的・運動発達</b> 1. グロス・モーター・デベロップメント 2. 微細運動能力の発達 3. 身体的な健康とウェルビーイング	<b>家族の伝統と発達</b> 1. 毎日の家族時間 2. 儀式と祝い事 3. 家族の責任 4. 価値観  <b>家族の関係性とダイナミクス</b> 1. 人間関係 2. コミュニケーション 3. 資源管理 4. 仕事と家族	<b>家族支援と地域社会への貢献</b> 1. サポートネットワーク 2. 地域社会への関与と社会変革  <b>社会的・グローバルな力</b> 1. メディア 2. 暴力と安全 3. ウェルネス 4. 環境への配慮  <b>学校とコミュニティ</b> 1. 親の関与 2. 学校の成功  <b>多様性-民族、経済、能力、その他</b> 1. 地域人口 2. 文化的アイデンティティ、受容、アドボカシー  <b>地域社会のリソース</b> 1. リソースの特定、評価、利用 2. 質の高い早期ケアと教育

倉元・山領仮訳、2021

### (1) 親の成長・発達

特に注目すべき領域は、「親の成長・発達」および「乳幼児期の発達」である。「親の成長・発達」では、特に親と子のニーズのバランスを取るという項目

に注目したい。親が個人としてのニーズや関心事も大事にしつつ、子どもや他の家族のニーズや関心事とのバランスを取ることで、また育児パートナーを含む他の家族との人間関係の中で、親子関係のニーズとのバランスを保つよう助言しており、特徴的である（図2、表9）。

表9 親の成長・発達

○親の役割

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

親役割への移行

1. 初めての親としての役割を受け入れ、うまく移行する。
2. 養子縁組の親、ひとり親、義理の親、祖父母、その他子育て中の者としての役割を受け入れ、適応する。

複数の親の役割

1. 子どものために、介護者、育成者、ガイド、教育者、創意工夫と創造性の刺激者としての役割を理解し、実行する。
2. 親としての役割に楽しみを見出す。

子育ての理念

1. 子育てのスタイルが子どもの行動に与える影響を理解する。
2. 自分の子育ての理念や、子育ての決断の指針となる長期的な子育て目標を、意図的に決定したり、特定したりする。
3. 子育ての理念や長期的な子育て目標と一致した、短期的な子育ての目標を明確にする。
4. 長期的・短期的な子育て目標に基づいた子育て理念を実践する。

○変化する親の役割

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

子育ての段階

1. 交流する中で、人として、親として、時間をかけて子どもと一緒に成長していくことを認識する。
2. 子どもの成長と発達、そして自分自身の変化する発達に沿って、子育ての信念と行動を、時間をかけて調整する。
3. 兄弟や他の家族の追加に積極的に適応する。

生まれ育った家族

1. 自分たちの家族の経験が、親としての自分たちや、必要に応じて子育てを識別・変更すること、どのように影響を与えているかを考える。

親と子のニーズのバランスをとる

1. 個人の心身の総合的な健康を維持し、生活の中のストレスを管理する。
2. 個人的なニーズや関心事と、子供や他の家族のニーズや関心事とのバランスを取る。
3. 親子関係のニーズを、育児パートナーを含む他の家族との人間関係の中でバランスを取る。

倉元・山領仮訳、2021

## (2) 乳幼児の発達

「乳幼児の発達」では、子どもの発達のプロセスが系統的に示されている（表10）。また、学習面、情緒面、身体面の発達支援に関する効果的な方法についての多くの事項が含まれている。特に、「社会性と情緒の発達・自己認識と自己調節」のなかの、「子どもの自己理解やジェンダーの理解、文化的アイデンティティ理解の発達を支援する」は、これから現代社会を生きていくうえで不可欠な能力であると考えている。



表 10 乳幼児期の発達

○一般的な子どもの発達

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

発達のプロセス

1. 子どもの発達は、次のような系統的なプロセスであることを理解する。
  - a. 相互に関連する領域によって記述され、組織化されている。
  - b. 段階的に進行する。
  - c. 普遍的である。
  - d. 個人のものである。
  - e. 予測可能なパターンで発生する。
  - f. 各領域内でのスキルとコンピテンシーの範囲が含まれている。
  - g. 遺伝的要因と環境的要因の影響を受ける。
2. 子どもは遊びを通して学び、成長し、発達することを理解する。

発達への期待

1. 幼児期の発達に関する知識をもとに、子どもの能力や行動に合理的な期待を持つ。

○社会性と情緒の発達

…するとき、親は子どもの社会的、情緒的成長・発達を支援する。

感情の発達

1. 温かく、思いやりがあり、従事している方法で、子どもの情緒的・身体的なニーズに対応する。
2. 子どもが自分とその他の人たちの感情を識別し、表現し、理解するのを助ける。
3. 自分の行動や感情に関連した結果の予想や解決策を考えることに、子どもたちを参加させる。

自己認識と自己調節

1. 子どもが成長していく力量と独立性を実験できるようにする。
2. 個々の子どもや大人を尊重する姿勢を示す。
3. 子どもの自己理解やジェンダーの理解、文化的アイデンティティ理解の発達を支援する。
4. 子どもたちに、生理的にも行動的にも感情と注意力の両方を調節するように教える。

社会的能力と人間関係

1. 子どもたちが、他者とのコミュニケーションの場面において、尊敬に満ちた相互作用を実践できるように支援する。
2. 子どもたちが、人々の類似性も違いも理解し、感謝できるよう支援する。
3. 子どもたちが、他者の感情や考え、行動を理解することを通して、共感を育むのを助ける。
4. 他の人を助けるために子どもたちを勇気づける。
5. 子どもたちの、他の子どもや大人との友情を育む。

○学習への取り組み

…するとき、親は子どもの学習への取り組みを支援する。

好奇心

1. 子どもたちの、発見と探求における興味と興奮を識別し、支援する。
2. 好奇心と情報探索をモデル化する。

リスクを取ること

1. 子どもたちに、新しく挑戦的なことや活動を使った実験をさせる。
2. 子どもたちの失敗や間違いに積極的に対応し、子どもたちがその失敗や間違いから学ぶことができるよう励ます。

想像力と発明

1. 問題を解決するための新しいアプローチを試すように、子どもたちを促す。
2. 子どもたちの柔軟性や想像力、創意工夫のデモンストレーションを励ます。

粘り強さ

1. 途切れない遊びの時間の大切さを理解する。
2. タスクにおいての子どもの注意力と持続性を励ます。
3. 助けが必要なきときには、押しつけがましくならないように子どもの要求に応じる。

反省と解釈

1. 子どもたちに、自分の身の回りの世界についての考えやアイデア、経験を共有するように促す。
2. 子どもたちに、出来事や経験から何を学ぶかを考え、学んだことを新しい状況に応用するように促す。

---

### ○言語とリテラシーの発達

---

…するとき、親は子どもの言語とリテラシー・スキルの成長・発達を支援する。

#### リスニングと理解

1. 子どもたちが、自分の環境の中にある音に気付き、区別できるようにする。
2. 子どもたちの言動に気付き、対応する。
3. 子どもたちの、言語や音、言葉に対する興味を高めるために、子どもたちと一緒に韻やリズムを使う。
4. 子どもたちの理解度に適した言葉を使って、子どもと話したり、歌ったりする。
5. 子どもたちの理解度を簡単なものから高度なものに高めるための明確な指示を与える。

#### 話すこと

1. 子どもが口頭でも非言語でもコミュニケーションをとる時間を確保する。
2. 子どもが口頭でも非言語でもコミュニケーションを取ろうとすることに対応する。
3. 家庭の言葉で子どもと会話をする。
4. 子どもとの日常生活の中で言葉を使ったり、自分の行動や思考、考えについて話す。
5. 子どもたちに、ターン・テイキングと会話における対話を学ぶように促す。
6. 子どもの語彙力の発達を養う。

#### 創発的なリーディング

1. 情報や楽しみのために子どもに読み聞かせをする。
2. 本を読む時間を特別なものにし、楽しく、年齢に合ったものを選ぶ。
3. 子どもが活字とその意味についての認識を育むことができるようにする。
4. 子どもたちが本やその他の印刷物がどのように機能するのかを学ぶことができるようにする。
5. 子どもたちが物語や本を理解する力を養う。
6. 年齢に応じて、子どもたちがアルファベットの文字を認識して言えるようになるように手助けする。

#### 創発的なライティング

1. 書くことがコミュニケーションの手段であることを子どもたちに教える。
2. 子どもたちが早い時期から書くことに興味を持つようにサポートする。

---

### ○創造性と芸術

---

…するとき、親は子どもの芸術的創造性と審美眼の成長・発達を支援する。

#### 創造

1. 子どもたちに、様々な画材や経験を用いて探究したり、実験したりする機会を提供する。
2. 音楽や創造的な動きに興味を持つ子どもたちの、音楽や創造的な動き、ダンスに対する興味を促す。

#### 対応

1. 芸術や創造的な表現に対する認識と鑑賞を促し、モデル化する。
2. 創造的で芸術的な様々な活動への参加を促す。

#### 評価

1. 子どもたちが自分の創造的な表現方法について話し合ったり、評価したりすることを促す。
2. 子どもたちが、見たり聞いたりした創造的な表現についての議論と評価を促す。

---

### ○認知機能の発達

---

…するとき、親は子どもの認知的成長・発達を支援する。

#### 数学的・論理的思考

1. 子どもたちが、日常的な素材や経験を使って、数学の概念を探ることを促す。
2. 日常的な言葉を使って、空間、場所、物の形や時間、その他の数学的概念を示す。

#### 科学的思考と問題解決

1. 子どもたちに、自然を探索する時間と機会を与える。
2. 子どもたちの行動が、反応結果をもたらすような素材や体験を与える。
3. 子ども達が、物質や物体、経験の積極的な探求を通して、質問をして答えを見つけるように促す。
4. 子どもたちが、観察や真似事を通して学ぶ機会を与える。
5. 問題解決における子どもたちの試みや成功を認識する。

#### 社会システムの理解

1. 子どもたちが、自分自身とその他の家族の特性に気付き、説明し、感謝できるように促す。
  2. 子どもたちが、家族の役割、仕事、ルールや関係性を理解できるように促す。
  3. 子どもたちが、人々が地域社会の中で行っている仕事や働きについて学ぶことのできる機会を与える。
  4. 子どもたちに、自分たちの環境の世話をする責任を分担することを教える。
-

---

○身体的・運動発達

…するとき、親は子どもの身体的、運動的成長・発達を支援する。

**粗大運動の発達**

1. 子どもたちが、動きたい、活動的になりたいというニーズをサポートする。
2. 子どもたちが、新しい粗大運動スキルを学び、練習することを促す。

**微細運動能力の発達**

1. 普段の日常的な活動の中で、小さな物や道具を操作する機会を与える。
2. ものを書いたり絵を描いたりする機会や材料を与える。

**身体的な健康とウェルビーイング**

1. 子どもに十分な栄養を与える。
  2. 十分かつ一貫性のある睡眠、リラクゼーション、食生活というものを理解し、提供する。
  3. 十分な運動と身体活動を、屋内外問わず確保する。
  4. 子どもたちにとって適切な健康管理を行う。
  5. 子どもたちにとって安全な家庭環境と遊びの環境を与える。
  6. 子どもたちが、自助努力においての自立を示すことを促す。
- 

倉元・山領仮訳、2021

### (3) 親子関係、家族の成長と発達、文化とコミュニティ

その他の領域から、重要だと思われる項目について言及しておきたい。

「親子関係」では、「愛着／自律・信頼」に示されている内容が、子どもの精神的安心を育むために大変重要であると思われる（表 11）。

「家族の発達」には、「家族の関係性とダイナミクス・人間関係」のなかで、「家族の一人ひとりを、それぞれの個性的ニーズと強みを持った個人として認識し、育成する」と述べられている。これは日本の家族にはあまり見られない考え方であり、興味深い（表 12）。

「文化と地域社会」では、「社会的・グローバルな力」において、子どもたちをメディアや暴力から守るために必要な能力や心得が示されており、示唆に富んでいる（表 13）。

表 11～13 には各領域の内容の詳細を示している。

表 11 親子関係

---

○親子関係の重要性

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

**性質と質**

1. 親としての効果が、親子関係の性質と質に大きく影響することを理解する。
2. 子どもの自己調節の発達における親子関係の影響を認識する。
3. 親子関係がその他の人間や環境影響の場面の中に存在することを認識する。

**意図性**

1. 意図的に保存および／または親子関係を強化するような選択をする。
  2. 子どものニーズを満たすことと、子どもが家庭やその他の場面で上手く機能できるように、子どものための構造を提供することのバランスをとる。
-

---

**○愛着 / 自律**

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

**信頼**

1. 敏感で対応力のある介護が、子どもたちがより広くて大きな世界を探索したり、その他の関係を探索することを可能にする信頼の基盤確保を育てることにどのように役立つかを理解する。
2. 繊細で、支援的で、思いやりのある方法で子どもに対応する。

**脳の発達**

1. 初期の相互作用や経験が、脳の構造と大人の器と性質と程度に、決定的な影響を与えることを理解する。
2. 子どもの脳構造の発達を支援する早期の親子交流に従事する。

---

**○関係性スキル**

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

**観察力**

1. 子どもを観察したり話を聞いたりすることで、子どもの興味やシグナルを理解し対応する。

**感性と対応力**

1. 与えられた状況の中で子どもの視点を理解し共感する。
2. 子どもの行動に適切に対応する。
3. 自分の言葉や行動が、子どもの認識と行動にどのような影響を与えているかを考える。
4. 子どもが自分の選択で、適切な活動を開始したり継続したりすることができるよう、邪魔にならないように許可する。

**互恵性**

1. 遊びや会話の中でバランスの取れたターン性があるという特徴のある、相互に魅力的な方法で子どもたちと交流する。

**ベース**

1. 最適な学習のために、子どもとの関わりのベースを調整する。

**気質**

1. 自分の気質と似ていても違っていても、子どもの気質を理解し、感謝し、働きかける。

---

**○育成**

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

**身体的なケア**

1. 子どもたちの栄養、住居、衣類、健康、安全のニーズを提供する。

**アフメーションと愛情**

1. 努力や成果に気づき、肯定する。
2. 触ったり、声を出したり非言語的な愛称を使って、子どもに愛情と温かさを表現する。
3. 子どもの気持ちを理解し、子どもの気持ちの全範囲に注意を払う。

**共感と尊敬**

1. 共感と優しさをモデルにして教える。
2. 子どもたちの自尊心と他者への敬意を育む。

---

**○ガイダンス**

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

**モデリング**

1. 適切な行動をモデル化する。

**モニタリングと管理**

1. 子どもの活動を監視し、子どもが仲間や大人との交流するのを尊重して指導する。
2. 子どもと親のニーズのバランスをとるために、毎日の家族の活動や日課を管理する。

**構造**

1. 合理的なガイドライン、期待、ルールを確立し、維持する。
  2. 制限を設定する状況を理解し、指導の機会として活用する。
  3. 問題解決能力を教える
  4. 責任というものを学ぶために、発達上適切な機会を子どもたちに提供する。
-

表 12 家族の発達

○家族の伝統と価値観

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

毎日の家族時間

1. 毎日の家族と一緒に過ごす時間を大切にし、作り出す。

儀式と祝いごと

1. 家族内での儀式を作り、それを保つ。
2. 誕生日、結婚式、葬式などのライフイベントに子どもたちを参加させる。
3. 子どもたちが、家族の歴史や文化的遺産とのつながりを感じるのできる機会を与える。

家族の責任

1. 子どもたちが、年齢に応じて家事に参加することを期待する。

価値観

1. 根本的にある尊敬に満ちた繋がりと関係性の価値を伝え、モデル化する。

○家族の関係性とダイナミクス

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

人間関係

1. 子どもたちと家族にとって、最善の利益となるような意思決定をするために、子育てパートナーと協力する。
2. 家族構成の変化に対応したり、健康的な方法で構成する。
3. 家族の一人ひとりを、それぞれの個人的ニーズと強みを持った個人として認識し、育成する。
4. 広範囲の家族や友人との時間を大切に、過ごす。
5. 積極的な兄弟関係を育む。

コミュニケーション

1. 家族の中で、尊敬の念を持った話し方や聞き方をするスキルを示す。
2. 家族の暴力にさらされることから子どもたちを守る。

資源管理

1. 家族全員のニーズを支えるために家族の資源を管理する。例えば、時間、経済、サポートネットワーク、住居、家庭環境などである。

仕事と家庭

1. 家族全員のニーズを最もよく満たすために、家庭と仕事の需要のバランスを取る。

倉元・山領仮訳、2021

表 13 文化と地域社会

○家族支援と地域社会への貢献

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

サポートネットワーク

1. 他の家族や近所の人たち、コミュニティグループとの関係を築き、維持する。
2. 他の保護者や家族への支援を行う。
3. 必要に応じて子育て支援や助けを求める。

地域社会への関与と社会変革

1. 子育てのコミュニティ、社会的、グローバルな側面を理解する。
2. 社会や地域の課題についての話し合いに参加する。
3. 地域社会の中にいるすべての子どもたちと家族の幸福度を高める実践を支援する

○社会的・グローバルな力

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

メディア（テレビ、ラジオ、ビデオ、コンピュータ、インターネット、印刷物、その他）

1. 早期のメディア露出が、脳神経のネットワーク開発に与える影響を理解する。
2. 教育、健康と栄養、自己概念、人間関係、価値観において、メディアコンテンツが子どもたちに与える影響を理解する。
3. 年齢に応じた内容を理解し、子どもたちが目にするメディアの内容をスクリーンで確認し一緒に復習したりする。
4. 子どもたちが、メディアやスクリーンに触れる時間を制限し、監視する。
5. 学習を強化し、積極的な親子関係を促進するメディア、テクノロジー、ゲームに子どもと一緒に参加する。
6. メディア番組の改善を支援する。

**暴力と安全**

1. 家庭内やコミュニティ、メディアの中で暴力にさらされることから子どもたちを守る。
2. 子どもたちに、年齢に合った安全な身の回りの技術を教える。
3. 全ての子どもたちのために、家庭や地域社会の安全な環境をつくるために努力する。

**ウェルネス**

1. 生涯にわたる健康的なライフスタイルの選択を教え、モデルとする。
2. 全ての子どもたちへの、総合的な身体的健康（医療、歯科医療、眼科医療を含む）と精神的健康サービスへのアクセスを促進する。

**環境への配慮**

1. 子どもたちに安全で安定した住宅を提供する。
2. 子どもたちの環境の中にある、鉛塗料やアスベスト、副流煙や麻薬、銃などの鉛塗料など、家庭の危険性の影響を理解する。
3. きれいな水や化学薬品を使用しない食品、きれいな空気や緑地などの環境が、子どもたちや家族に与える影響を理解する。
4. 子どもたちと家族にとっての、アウトドアと自然の重要性を認識する。
5. 子どもたちや家族にアウトドアや自然と触れ合う経験を与える。
6. 全ての子どもたちと家族のために、より健康的な環境づくりのための支援と取り組みを行う。

**○学校とコミュニティ**

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

**親の参加**

1. 教育の場への定期的な出席と参加の重要性を理解し、推進する。
2. 家庭内や学校、地域社会において、子どもたちの学習や教育に参加している。
3. 学校や地域社会の中で、子どもを適切に擁護する。
4. 全ての子どもたちための教育的変化を支援する。例えば、小規模クラスや課外プログラムへのアクセス、人種やクラス、性別の偏りの撤廃など。

**学校の成功**

1. 子どもたちが、幼児期のプログラムとサービスから、幼稚園と K12 スクールシステムへスムーズに移行できるよう支援する。
2. 子どもたちの学校生活での成功につながる習慣を理解し、促進する。
3. 子どもたちに、学校と社会で責任ある市民になるために必要なスキルを教える。
4. 子どもの学習や学校での目標達成への高い期待を伝える。

**○多様性—民族、経済、能力、その他**

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

**地域社会の人々**

1. 様々な地域社会の人口の強み、共通点、相違点を理解する。
2. 地域社会の活動と資源の中に、多様な家族や子どもたちを受け入れるように努める。
3. 子どもたちに、地域社会の中にいる他の国籍の人達との有意義なつながりを与える。

**文化的アイデンティティ、受容、アドボカシー**

1. 子どもたちが地域社会と世界の中で、自分達とその他の人々の文化を理解し、誇りを持つことができるように支援する。
2. 子どもたちに、すべての人と文化への感謝と受容を教える。
3. すべての子どもたちを代表して擁護する。

**○地域社会のリソース**

…するとき、親は子どもの成長・発達を支援する。

**リソースの特定、評価、利用**

1. 子どもたちや彼ら自身、そして家族のニーズを満たすために、地域社会の資源を特定し、評価し、利用する。
2. 全ての子どもたちと彼らの家族の利益のために、地域社会の資源の向上・発展を支援する。

**質の高い早期ケアと教育**

1. インフォーマルケアとフォーマルケアの質と教育設定の質の指標を理解する。
2. 子どもたちのために、質の高いケアと早期教育プログラムを評価し、選択する。
3. 全ての子どもたちのために、アクセスしやすく、十分な資金が提供され、質の高いケアと早期教育プログラムを促進する。

## V. まとめと今後の課題

ミネソタ州の乳幼児期の子を持つ親教育の背景となっている『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011』について、検討した結果、以下の点が明らかになった。

- (1) 『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011』誕生の裏には、ミネソタ州の人々の様々な思いや努力、長い歴史があった。
- (2) 『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011』は、親教育の定義、目的・目標、組織・構造、領域「親の成長・発達」「親子関係」「幼児期の発達」「家族の発達」「文化とコミュニティ」における内容と指標が提示されており、乳幼児をもつ親に対する教育の全体的包括的な指針となっている。
- (3) 典型的かつ先駆的であり歴史も古いため、様々な州や地域で行われている家族教育プログラムの基盤やモデルとなっている。

以上のことから、ミネソタ州の乳幼児期家族教育のための『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011』は、親の発達、親子関係、幼児期の発達、家族の発達、文化、コミュニティの領域で親教育プログラムのカリキュラムを計画するための包括的なガイドとなり、多くの地域で生かされていることが明らかになった。

現在の日本では、子どもを持つ親、特に母親が抱える悩みや問題に対する具体的な解決策や支援策が十分とはいえない。これに対して、子ども・親・家族・コミュニティの生活に関わる課題について、深く学んだり、討論を通して考えたりすることができるプログラムが構築されることは、非常に有意義であると考えられる。

今後、『親教育コア・カリキュラム・フレームワーク 2011』の残された部分について、翻訳、検討する予定である。また、親教育が子どもやその家族に与える影響・効果について実際の調査を通じて解明していきたい。さらに、それらの成果を日本の子ども・親・家族・家庭や教育の現場にどのような形で取り入れることができるかについて、考察していきたい。

## 謝辞

本研究の一部は2019年度西南学院大学教育・研究推進機構による研究助成を受けている。記して深く感謝いたします。

## 引用文献

- Minnesota Association for Family and Early Education. (日付不明). *Parent Education Core Curriculum Framework*. <https://www.mnafee.org/parent-education-core-curriculum-framework.html> (閲覧日: 2021年5月16日).
- National Council on Family Relations National. (2015). *Family Life Education Content Areas: Content and Practice Guidelines*. NCFR: <https://www.ncfr.org/sites/default/files/2020-02/FLE-Content-and-Practice-Guidelines-2014-objectives.pdf> (閲覧日: 2021年5月16日).
- ダーリン、キャシディ、パウエル著、倉元、黒川監訳. (2019). 家族生活教育: 人の一生と家族. 鹿児島: 南方新社.
- 藤井美保. (2011). カリフォルニア州のコミュニティ・カレッジにおける親教育: グレンデール・コミュニティ・カレッジを中心に. 熊大教育実践研究, 28, 81-89.
- 藤井美保. (2012). アメリカにおける家族支援・親教育に関する一考察: サンタモニカ家族サービスのプログラムとサービスを中心に. 熊本大学教育学部紀要, 人文科学(61), 133-143.
- 倉元綾子. (2021). 米国・ミネソタ州における乳幼児期家族教育 (Early Childhood Family Education) の歴史と制度: 家族生活教育および親教育の事例. 西南学院大学人間科学論集, 16(2), 195-228.
- 厚生労働省. (2021). 厚生労働省. 参照先: 子ども・子育て児童虐待防止対策: <https://www.mhlw.go.jp/content/000704670.pdf> (閲覧日: 2021年5月16日).
- 内閣府男女共同参画局. (2020年12月21日). <https://www.mhlw.go.jp/content/12201000/000707300.pdf> (閲覧日: 2021年5月16日).

西南学院大学人間科学部児童教育学科